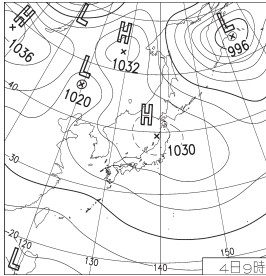


日々の天気図

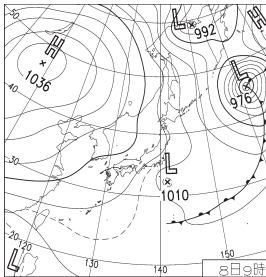
—No. 118

2011年11月

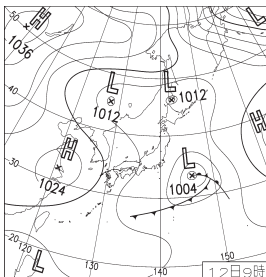
- 11月上旬としては、西日本で統計開始の1961年以降最も高い平均気温を記録。
- 18日、鹿児島県で竜巻による被害が発生。
- 25日、西日本を中心に最低気温低く、宮崎で初霜・初氷を観測。
(気象庁予報部予報課)



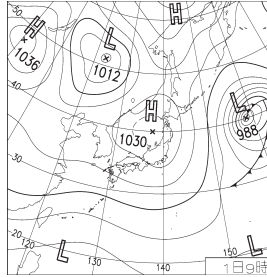
4日(金) 帯状高気圧に覆われる
本州付近は概ね晴れたが、南西諸島～九州では曇り、一部では雨。西日本を中心に夏日となり、最高気温は11月の観測史上最高が多数、札幌、函館で平年より約1週間遅く初氷。



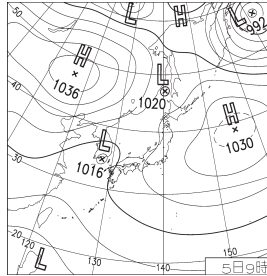
8日(火) 立冬 気温は平年並に
本州付近は概ね晴れ、北から冷たい空気に覆われて、日本列島もようやくこの時期本来の寒さに。最高気温は九州南部を除き平年並。沖縄本島北西沖M7.0地震で名護市等震度4。



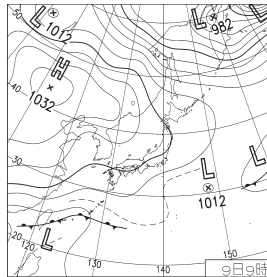
12日(土) 天気回復
北日本を中心に広く晴れたが、午後は気圧の谷が通過した東～北日本で曇りが広がる。最低・最高気温ともに平年より高く、全国的に10月並。北海道では最低気温が9月並の地点も。



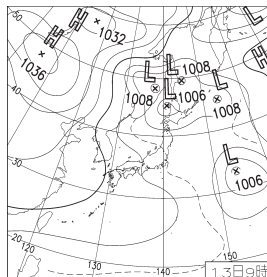
1日(火) 西日本各地で夏日
移動性高気圧に覆われ南西諸島などを除き広く晴れて気温上昇。最高気温は全国的に平年より高く、福岡県久留米市津福本町27.1℃など九州～近畿で11月の記録更新。



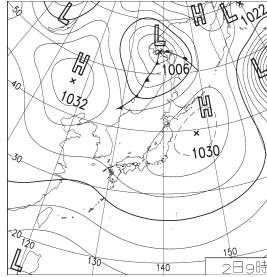
5日(土) 西から雨
低気圧や湿った空気の流入で、日中は西日本中心、夜は関東や東北などでも雨。北海道は別の低気圧の影響で曇りや雨。西日本や東海で最低気温が平年より7～10℃高い。



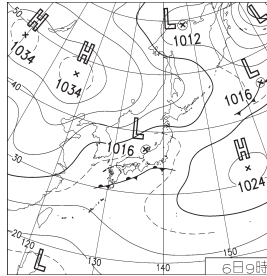
9日(水) 高気圧に覆われる
西～北日本は高気圧に覆われ、日本海側の一部で雨や曇りだが、その他は、曇りは多めながらも晴れ。南西諸島～九州南部では前線の影響で雨。沖縄県南城市糸数で72mm/1h。



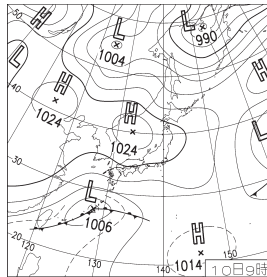
13日(日) 本州各地で放射霧
北海道付近を低気圧が通り、北陸から東北で一時的雨。気圧の谷の影響で積乱雲が発達、沖縄県竹富町大原で56mm/1h。本州は晴れた所が多く、朝方に川沿いや盆地で放射霧が発生。



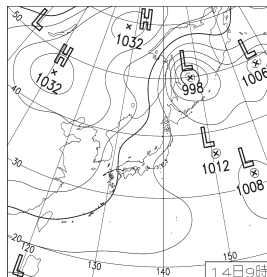
2日(水) 奄美大島で記録的大雨
奄美大島付近で対流雲が発達し記録的大雨に。鹿児島県瀬戸内町古仁屋143.5mm/1hは観測史上1位を更新し国内歴代9位。最高気温は全国的に平年より高く、北陸で夏日。



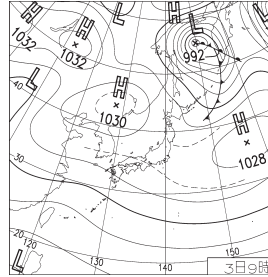
6日(日) 沖縄、九州で激しい雨
低気圧や前線の影響で全国的に曇りや雨。沖縄県沖縄市胡屋44.5mm/1hなど沖縄と九州で激しい雨。最低気温は全国的に平年よりかなり高く85地点で11月の記録更新。



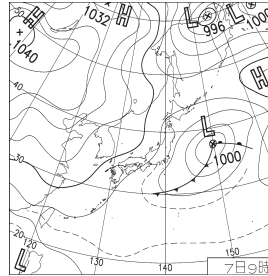
10日(木) 北日本は朝冷え込む
高気圧に覆われた北日本は晴れ、その他は曇りや雨。北日本太平洋側の最低気温は平年を3～5℃下回り、北海道標茶町開運で-7.2℃。盛岡・山形で初霜、盛岡は初氷も。



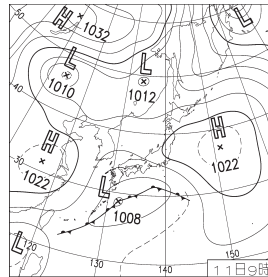
14日(月) 札幌で遅い初雪
朝の最低気温は全国的に平年より高く、東～北日本は10月並であったが、北日本では午後寒気が入り最高気温は平年並に下がる。札幌で初雪、1876年以降、3番目に遅い記録。



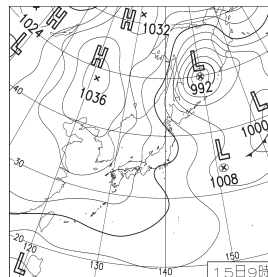
3日(木) 気温の高い日が続く
北海道は晴れたが、本州付近は2つの高気圧の谷間にあって曇が多く、雨の所も。気温は全国的に平年より高く、沖縄から九州の一部で最低気温は9月中～下旬並。



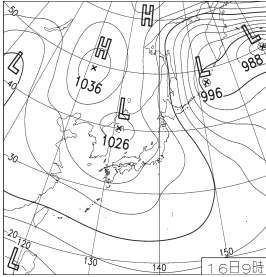
7日(月) 気温高め
西日本や本州の太平洋側は晴れ、日本海側や北日本は雨や曇り。最低気温は9月下旬～10月上旬並と高く、最高気温も九州や関東は10月並と高く、関東は9月下旬並の地点も。



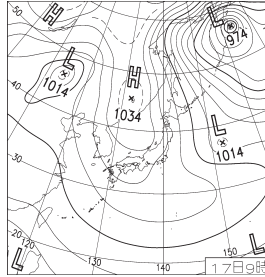
11日(金) 関東など冷たい雨
低気圧の影響で近畿～東南北部は雨、和歌山県新宮で41.5mm/1h。東京、横浜、埼玉、千葉は日中気温低く昼過ぎに最低気温観測。北海道は晴れて最高気温は平年を6～7℃上回る。



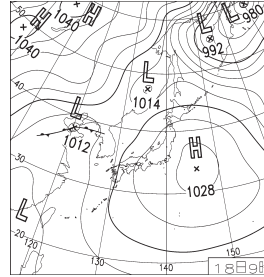
15日(火) 北海道～東北部は雪
北日本を強い寒気が南下。北陸～北日本日本海側は雪や雨となり、青森市酸ヶ湯で日降雪量30cm。北海道は平地でも積雪、標茶町開運で最低気温-8.9℃。青森、盛岡、秋田で初雪。



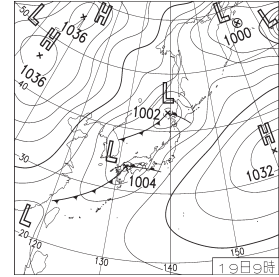
16日(水)関東甲信も初雪や初霜
強い寒気により北海道岩見沢市5条降雪量53cm/日で、降水量は11月1位の79.5mm/日、東日本も冷え込み、宇都宮、水戸、甲府で初霜、長野では初雪となり、浅間山などで初冠雪。



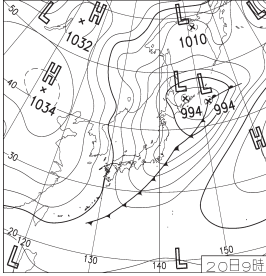
17日(木)北日本は冷え込み続く
寒気の影響が続き、東北や北海道の最低・最高気温は平年よりも低く12月並の地点も、青森市酸ヶ湯は3日連続真冬日。北海道の日本海側で雪。九州は気圧の谷の接近により午後雨。



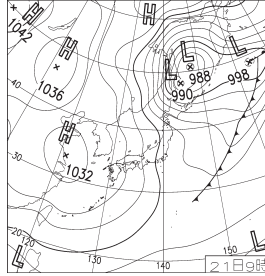
18日(金)徳之島町で竜巻
南からの暖かく湿った空気により九州で大雨、鹿児島県徳之島町轟木で竜巻が発生し死者3名、長崎県では100mm/1hを超える猛烈な雨の降った所も。仙台・長野地で初霜や初氷。



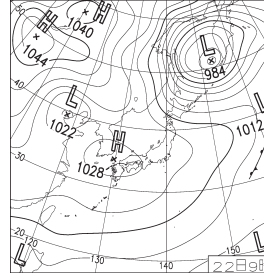
19日(土)二つの低気圧通過
列島は日本海と太平洋沿岸を進む低気圧の影響で大荒れ。南西諸島から本州太平洋沿岸にかけて大雨や暴風、鹿児島県鹿屋市寿で64mm/1h、和歌山県友ヶ島で最大風速27.3m/s。



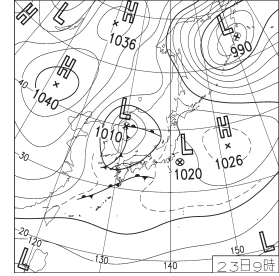
20日(日)東海～関東で夏日
冬型気圧配置。山陰から北の日本海側は雨。北海道の雨は夜雪に変わる。西～東日本太平洋側は概ね晴れ。低気圧が持ち込んだ暖かな空気の影響で、静岡市清水で最高気温26.8℃。



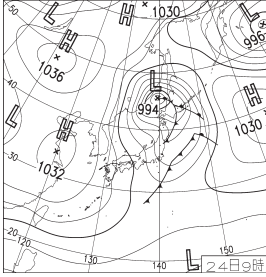
21日(月)札幌で真冬日
冬型気圧配置強く日本海側は雪や雨、北日本で積雪。東～北日本の最高気温はほぼ全域で前日より6℃以上低下。北海道は札幌などで真冬日、えりも岬など暴風。新潟初雪。



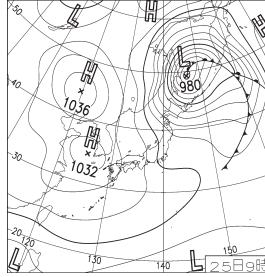
22日(火)冬型緩み、寒い朝
移動性高気圧に覆われ、晴れて放射冷却が強まり、朝の最低気温は全国的に平年より低く、九州では真冬並の地点も。宇都宮・水戸・熊谷・甲府・奈良で初氷。



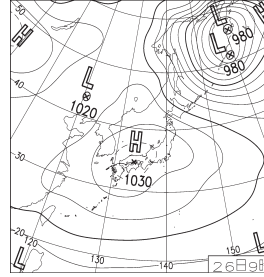
23日(水)日本海沿岸で雷多発
低気圧が急速に発達しながら日本海を東北東進。また停滞前線が本州南岸を東進。これらにより雨域が朝の九州から夜遅くには北海道まで進んだ。日本海海上と沿岸で雷多発。



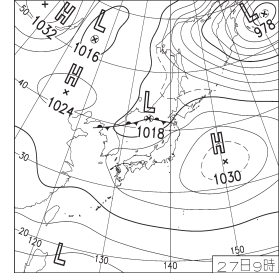
24日(木)冬型の気圧配置強まる
日本海北部で低気圧が発達し、日本付近は冬型の気圧配置へ。南西諸島から東日本太平洋側では概ね晴れ。日本海側では雨や曇りで、北日本では、午後、雨から雪に変わる。



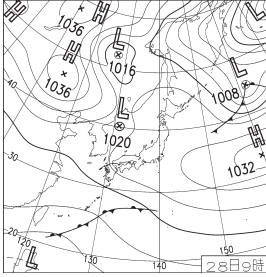
25日(金)九州からも冬の便り
西～東日本は冬型が緩むが、北日本は風雪が続く。西日本を中心に最低気温が12月上旬～1月中旬並となった所も多く、静岡・宮崎で初霜、宮崎で初氷。



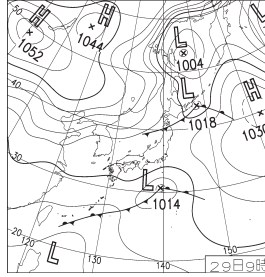
26日(土)冬型の気圧配置緩む
移動性高気圧に覆われ晴れて最低気温は西～東日本で平年より低く、岐阜・高松で初霜、仙台・前橋で初氷。日中の最高気温は東海・関東を除き全般に昨日より高い。



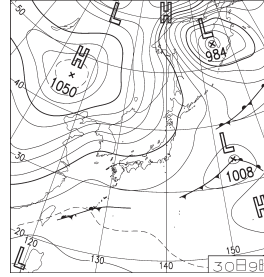
27日(日)福島で初氷
前線を伴った低気圧の通過により北日本は雨や曇り。高気圧に覆われた西～東日本は晴れたが、午後は薄雲が広がる。初氷を観測した福島の最低気温は12月下旬並。



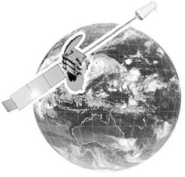
28日(月)高気圧 遠ざかる
本州付近は気圧の谷の中で、高気圧後面の暖かい空気の流れ込んだ奄美や九州の一部で雨、本州は広く曇り。北海道は高気圧の勢力下で晴れ。大阪市と滋賀県彦根市でイチョウ黄葉。



29日(火)暖かい一日
北日本と南西諸島では、前線の影響で曇りや雨。その他は太平洋沿岸で曇が多いものの概ね晴れ。気温は最低、最高共に西・北日本では10月～11月上旬並。その他は11月中旬並。

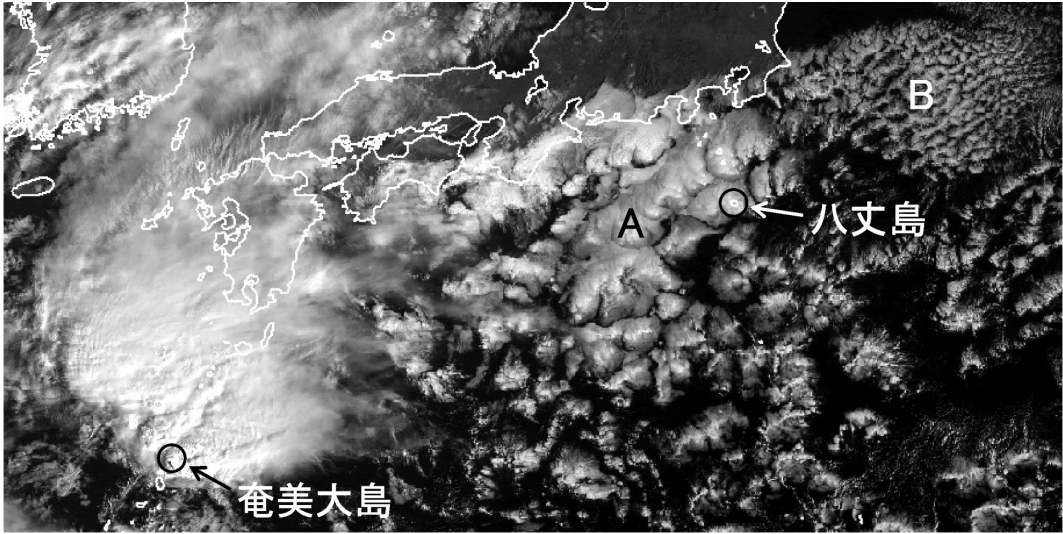


30日(水)北から寒気押し寄せる
西～東日本は晴れて20℃前後の暖かさの一方、寒気に覆われた北日本は最高気温が前日から5～10℃低下。天気も次第に雪。前線に近い沖繩は激しい雨、名護市宮里で66.0mm/1h。



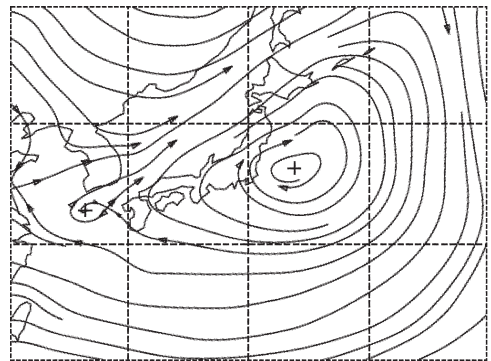
今月のひまわり画像—2011年11月

本州南岸付近で顕在化したセル状の雲



第1図 2011年11月2日09時（日本時間）の本州南岸付近の可視画像（記号については本文参照）。

第1図は2011年11月2日09時（日本時間）の本州南岸付近の可視画像である。東海道沖（同図A付近）にはまるで白い風船が一面に浮かんでいるかのように、直径約50～80kmのセル状の雲が広がっている。八丈島、潮岬、浜松の高層観測データなどによると雲頂高度は750～700hPa付近で、レーダー観測では一部で弱い降水を伴っていた。このセル状の雲域は10月31日に日本の東海上で前線を伴った低気圧が発達し寒気が南下したことにより形成され始め、11月1日夜に同海域付近で勢力を強めていた移動性高気圧の南西象限で下層の南東風に流されながら顕在化し、2日朝に東海道沖付近に進んでいた。八丈島の高層観測データにおいて、セル状の雲域内に入る前の1日21時と入った後の2日09時のエマグラム（図略）を比較すると、2日09時は沈降性逆転層の下の770～760hPa付近の層の温度が前12時間で約8℃低下し、混合層は約0.5km厚くなっていた。また、第1図では房総半島の東海上（同図B付近）にも直径約10～30kmのスケールの小さいセル状の雲が見られる。このセル状の雲域も黒潮の影響を受けて海面水温が高くなっている領域で顕在化していたが、高気圧の中心付近に位置しており（第2図）、 T_{BB} （等価黒体温度）から推定した雲頂高度



第2図 気象庁全球モデルによる2日09時の日本付近の850hPa流線解析図。

は東海道沖の雲域に比較して低かった。なお、本州南岸付近におけるこれらの珍しいセル状の雲域との関係は定かではないが、同日午前この移動性高気圧の周辺部に位置していた鹿児島県奄美地方では縁辺流の強化の影響を受けて記録的な大雨となり、奄美大島南端のアメダス瀬戸内町古仁屋では09時08分までの1時間に143.5mmの降水量（同地方における観測史上1位）が観測された。

（福岡管区気象台技術部予報課 木下 仁）